

ノロウイルスによる感染性胃腸炎の 感染防止について



感染性胃腸炎は冬季に多く発生し、ウイルスや細菌が原因となって胃腸炎の症状を起こす病気です。原因となるウイルスや細菌の中でもノロウイルスは感染力が強く、学校や施設などで集団感染を引き起こすことがあるので、日頃から気をつけましょう。

特徴と症状

ウイルスに汚染された飲食物を摂取したり、患者のふん便や吐物で汚染されたものを口にして起こる**経口感染**です。

感染後 **1～2日の潜伏期間**の後、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛などを起こします。通常1～2日続いた後治癒し、後遺症もありません。しかし、抵抗力の弱い乳幼児や高齢者は下痢による脱水症状を起こし重症化することがあります。

感染力は強く、人から人へ二次感染を起こします。

消毒方法

消毒する重点箇所は、**患者さんの使用したトイレ、洗面所**です。

次亜塩素酸ナトリウムで消毒します。**アルコールはノロウイルスに対する消毒効果が期待できません。**（別紙パンフレット『消毒液の作り方』参照）

- 患者さんが用便した後は、トイレの取っ手やドアのノブなど直接接触した部位を中心に消毒しましょう。

（注意：清拭消毒が中心で消毒薬の散布や噴霧はしない）

ペットボトルを利用すると簡単です。
キャップ1杯が5mlに相当します。

	原液濃度	希釈	方法	使用する場所
0.1% (濃い)	1% (ミルトンなど)	10倍	原液 10ml+水 100ml	嘔吐物、便が直接ついた場所・衣類
	5% (ハイター・ブリーチなど)	50倍	原液 10ml+水 500ml	
0.02% (薄い)	1% (ミルトンなど)	50倍	原液 10ml+水 500ml	調理器具、床、トイレのドアノブ、便座
	5% (ハイター・ブリーチなど)	250倍	原液 10ml+水 2.5l	



二次感染防止の注意点は
裏面を御覧下さい

二次感染を防止するために気を付けること

◇ 手洗い ◇

人から人への感染を予防する基本は『手洗い』です。

- 食品を取り扱う前や食事の前、排泄後、下痢をしている子どもや高齢者の世話をした後などは石けんと流水でよく手を洗う。
- 患者さんのふん便や吐物に触れた場合には、直ちに石けんと流水でよく手を洗う。
- タオルの共用は避け、清潔なタオルやペーパータオルで拭く。



◇ 症状があったら… ◇

- ノロウイルスにはワクチンや抗ウイルス剤がなく、治療は輸液などの対症療法に限られる。そのため、安静にして水分の補給を行い、消化しやすい食事をとる。

◇ 患者さんのオムツ交換・排泄物処理について ◇

- 別紙パンフレット『おう吐物・ふん便処理について』参照

◇ 調理 ◇

- 患者さんは、調理を行わない。
調理を行わざるを得ない場合は、使い捨ての手袋、マスク等を着用して二次感染を防ぐ。
- 調理前には、手洗いを励行する。
- 生ものの摂取は控え、必ず食品の中心部まで熱が十分届くよう加熱調理する。
(85℃～90℃で90秒以上の加熱)
- まな板、包丁、食器、ふきん類はよく洗い、家庭用漂白剤（塩素系）につける、または熱湯消毒をする。

◇ 洗濯 ◇

- 患者さんの（おう吐物・ふん便で汚れた）衣類は、家庭用漂白剤（塩素系）につけてからその他の洗濯物と分けて洗う。洗濯後は、日光に当てるなどしてよく乾燥させる。



◇ 患者さんの入浴 ◇

- できるだけ浴槽につからず、シャワーか掛け湯にする。
- 浴槽に入る場合には、家族と一緒に入浴しないようにする。家族全員が入浴した後に入る。
- 最後に風呂水は流しておき、浴槽の水は毎日取り替える。
- バスタオル等は家族と共用しない。洗面器の消毒は必要ないが常に清潔にしておく。

内容の問い合わせはこちらまで

宮城県塩釜保健所黒川支所 地域保健班
電話番号 : 022-358-1111

